

令和6年度デジタル田園都市国家構想交付金(推進タイプ)事業に関する資料

事業名	銚子に学び、集う！歴史文化とジオパーク！銚子半島まるっぽ博物館化事業	
総合戦略記載箇所	基本目標2 新しいつながりを築き、ひとの流れをつくる 1 魅力ある観光地づくり	
交付金対象事業期間	令和4年度～令和6年度(3年間)、以降は自立自走	
総事業費(予定)	75,000,000円	
令和6年度事業費(実績)	24,934,169円	
【KPI】		
指標名	目標値	実績値
造成したプログラムを使用した市内宿泊者数	135人(令和6年度)	165人
造成したプログラムによる誘客数	450人(令和6年)	1,172人
パートナーシップ構築したプレイヤー数	10人(令和6年度)	12人
拠点施設への来館者数	1,975人(令和6年度)	5,305人
【事業効果】		
・地方創生に効果があった		
【事業概要】		
銚子資産を活用した体験プログラムの造成、ストーリーに沿った市内周遊型のツアーコースの開発・販売により、旅行者の滞在時間の延長を図り、日帰り客から宿泊客へのシフト、宿泊日程の延長、又は再訪につなげていく。文化財の一括管理とそれを活かした展示施設を整備し、ツアーコースの拠点として活用するほか、事業終了後、継続的に商品開発や販売を行うための組織を立ち上げ、地域内外でのPRや事業展開を強化するための連携体制の構築・強化を図るとともに、自立自走による事業の推進に向けた人材育成を図る。		
【事業成果】		
【銚子資産とは】 「銚子市文化財保存活用地域計画」(令和2年度文化庁認定)において、文化財の類型や指定・未指定に関わらず、本市の歴史文化・自然に関連する全ての地域資源を「銚子資産」とし、銚子資産を取り巻く周辺環境を含めて総合的に把握し、保護していくものとした。また、「銚子資産」は「銚子らしさ」を表す財産でもあり、これらを観光資源として活用することで、本市の歴史文化・自然の魅力を発信することにより「銚子ブランド」の向上にも貢献していくと位置づけている。		
1. 教育旅行の商品開発及び販売促進事業(5,000千円)		
令和4・5年度で造成した体験コンテンツを活用して、宿泊型「大人の学び旅」と日帰りの「児童・生徒向けの教育旅行」の各2コース、計4コース企画した。企画するにあたり、学校教育で重視されている「問題発見・課題解決」の能力を養成するフィールドワークのできる目的地として本市が選ばれることを意識し、さらに様々なテーマへの対応が可能となり、メニューをカスタマイズしていけるような工夫を凝らした。 企画・開発したテーマやコースを基に旅行商品として販売できるように整理し、そのうち2つのコースを活用してモニターツアーを実施した。「児童・生徒向けの教育旅行」では、「灯台」をキーワードに地域資源とプログラミング学習をセットにした親子で参加できるプログラムを提供し、参加者からは好評を得た。「大人の学び旅」では、「銚子の海業のこれまでとこれから」と題し、銚子の水産業の過去・現在・未来を学び、「持続可能な海業とは何か？」を考える機会とした。企画テーマへの共感、内容などへの評価は高かったが、体験できるアクティビティに対するニーズが高く、磨き上げが更に必要という意見や「学びや気づき」が全面に押し出されない旅の見せ方などに関する意見をいただいた。 また、今後、旅行商品は販売していくために必要なWebサイト上のコンテンツの整備を、令和5年度に作成した『『銚子時間。』WEBサイト改善提案書』を踏まえて、銚子資産活用協議会が運用しているWebサイト「銚子時間。」を旅行者及び個人等に対して効果的な情報発信ができ、販売促進に必要な機能を加えたりリニューアルを実施した。 ジオパークや日本遺産といった活動を展開している本市での「学び」ツーリズムの推進は、親和性が高いため、今後は地域プレイヤーと行政が連携・協業しながら、実績を積み上げていくことが重要である。		

さらに、本事業で連携を図っている地域プレイヤー等とツアーの受入組織の整備に関する継続協議をしており、体制の整備、ガイド等の関連人材の育成、体験コンテンツの充実に民間と行政の役割分担と連携の具体化・強化を急ぎ、引き続き取り組んでいく。

2. 学びの創出事業(4, 000千円)

本市の「地質遺産」、「自然」、「歴史・文化・伝統」等の要素を取り入れ、それらの関連性の理解を促すデジタル資料を制作した。資料は、センターの展示室で映像展示として活用し、来訪者の理解を助け、現地への訪問意欲促進につながることを目指した。ふるさと学習や出前講座、各拠点施設などでも今後活用していく予定である。

ジオパーク活動においてジオサイトとして活用している「屏風ヶ浦」と「高田川の露頭(チバニアン下限)」の2ヶ所にスマホをかざして学びを深めることができる「サイト深堀りAR」を整備した。このARアプリにより、ガイドが案内しなくても、わかりやすくサイトの価値を伝えることができ、今後、他のサイトでの設置を検討していきたい。

3. プロモーション(900千円)

造成した旅行商品や作成した営業用資料を活用し、旅行会社2社と今後の具体的な協議・販売に関する協議を実施した。特にうち1社は本事業のテーマやコンセプトへの共感が強く、今後の販売開始する際に優先的かつ具体的に協議していくことが有効な事業者と認識した。現状では、旅行会社の役割としては、地域と学校等を「仲介する」という役割が強く、学校側のニーズに対応した企画内容の案出し、整理、開発、カスタマイズ、事前事後学習への対応などは地域側が行うことができるようになることが重要である。

4. 運営体制の整備(3, 000千円)

ジオパークや日本遺産等は官民協働で事業を展開しているが、その協力関係を見える化するために、パートナーシップ制度等を構築し、相互連携のあり方を発信し、地域全体で活動を推進していることを広く周知する必要がある。そのため、リニューアルした「銚子時間。」内にパートナーとして活動する事業者を紹介するコンテンツを増設する。現在2事業者掲載しているが、今後もパートナーシップ等を締結した事業者などを紹介していく予定である。

また、観光客を受け入れる体制で必要不可欠な「ガイド」の育成も併せて行った。新たなガイド人材の発掘及び既存のガイドの育成を重点的に取り組み、各種講座を開催した。

5. 事務費(47千円)

事務用消耗品等購入

6. 拠点整備事業(11, 990千円)

令和4年度作成した「銚子市『学びの拠点』施設整備計画」に基づき、令和5年度に引き続き、展示什器や展示資料を制作した。本市が所蔵している各種資料をジオパーク・芸術センターで一元管理するとともに、センターを本市の歴史文化・自然を学ぶことができる拠点として位置づける。そして、地域内外の人々に向けた「学びの拠点」であり、様々な市内周遊型ツアーを創出した際、各コースのスタート又はゴール地点として活用するゲートウェイとしての役割を果たすことを目指している。さらに、雨天時に長時間滞在できる施設が少なく、天候によるツアー中止のリスクを軽減し、雨天時であっても、誘客ができる旅行商品の開発につなげることが可能となる。